

図書館ってどんなところ？

ずらりと並ぶ本や雑誌、よく見るとCDやビデオ、DVDなどもあります。一見、街の大きな本屋さんとよく似ています。でも図書館ってどんなところなのでしょう？図書館は大きく分けると、本などの資料を「集める」「整理する」「保存する」として「提供する」という4つの役割を持っています。

選ぶ・集める

図書館にどんな資料を置くかを選びます。小説や絵本はもちろん、学術雑誌や個人ではなかなか買えない辞典類、地元のことが書かれた本など、図書館があれば皆の役に立つと思われる資料を選びます。書店や出版社に注文して購入したり、市販されていないものは発行元に寄贈をお願いしたりして入手します。

「整理」する

資料をそのまま並べたのではどこに何があるのかわからなくなってしまいます。図書館では形態や内容によって資料を分類して記号をつけています。その記号をラベルに書いたり、シールを貼ったりしてわかりやすいように並べます。検索ができるように目録※1 データを作るのも「整理」のひとつです。

保存する

本屋さんと大きく違うのは、古い資料を保存するということ。絶版で手に入らない本や雑誌や新聞のバックナンバーなど、図書館では様々な資料を保存しているので、古いものから新しいものまで手にすることが出来るんです。江戸時代に描かれた絵図などほんとは古～い資料もありますよ。壊れた資料もできるだけ修理して保存します。

提供する → 利用する

図書館の資料は「使うため」のもの。集めるのも整理するのも保存するのも、すべて「使うため」の準備です。たくさんの人に長く使っていただくために館外への貸出をしていない資料もありますが、新しい資料から古い資料までそろっていて、それを無料で自由に使えるのが図書館の嬉しいところです。図書館の本はみんなの共有財産。大事に使ってください。

※1 図書館のことは：1 「目録」ってなに？

目録とは、一般には物品の品名などを記したリストのこと。図書館では、タイトルや著者の名前、出版年などの資料の情報を一定の順序で記録したものを「目録」と呼んでいます。コンピュータに蓄積されていて、検索機やインターネットで調べられるようになっています。